

エコフィードをめぐる情勢

生産局畜産部飼料課



令和3年2月19日

農林水産省

エコフィード(ecofeed)とは

- エコフィード(ecofeed)とは、“環境にやさしい”(ecological)や“節約する”(economical)等を意味する“エコ”(eco)と“飼料”を意味する“フィード”(feed)を併せた造語。
- 食品製造副産物(醤油粕や焼酎粕等、食品の製造過程で得られる副産物)や売れ残った食品(パンやお弁当等、食品として利用がされなかったもの)、調理残さ(野菜のカットくずや非可食部等、調理の際に発生するもの)、農場残さ(規格外農産物等)を利用して製造された家畜用飼料。

エコフィードの原料となる食品残さ等

■食品製造副産物

〔パン屑、菓子屑、製麺屑、豆腐粕、醤油粕、焼酎粕、ビール粕、ジュース粕 等〕



パン屑



豆腐粕



醤油粕

■余剰食品及び調理残さ

〔売れ残り弁当、廃食用油、カット野菜屑 等〕



売れ残り弁当



カット野菜屑

■農場残さ

〔規格外農産物 等〕



規格外ニンジン

食品残さ等の加工

混合・乾燥

サイレージ(発酵)

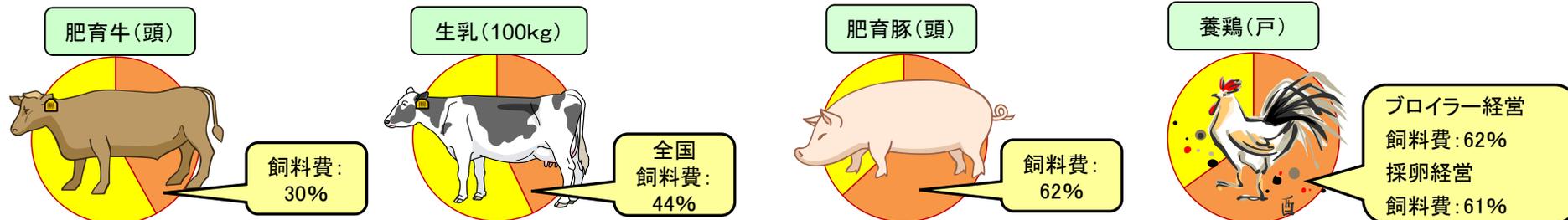
リキッド(液化)



エコフィードの意義(飼料自給率向上)

- 畜産業における飼料費は経営コストの約3~6割を占めているが、特に濃厚飼料の大部分は輸入に依存している。
- 「食料・農業・農村基本計画」において、令和12年度の飼料自給率目標を34%に設定(令和元年度(概算)では25%)。
- 輸入飼料に過度に依存した畜産から国産飼料に立脚した畜産経営の実現を図るため、飼料自給率の向上を図る取組として、地域の未利用資源や食品残さ等を利用したエコフィードの生産と利用の推進を図っている。

■経営コストに占める飼料費の割合 (平成30年度畜産物生産費調査および平成30年営農類型別経営統計)



■飼料自給率の現状と目標



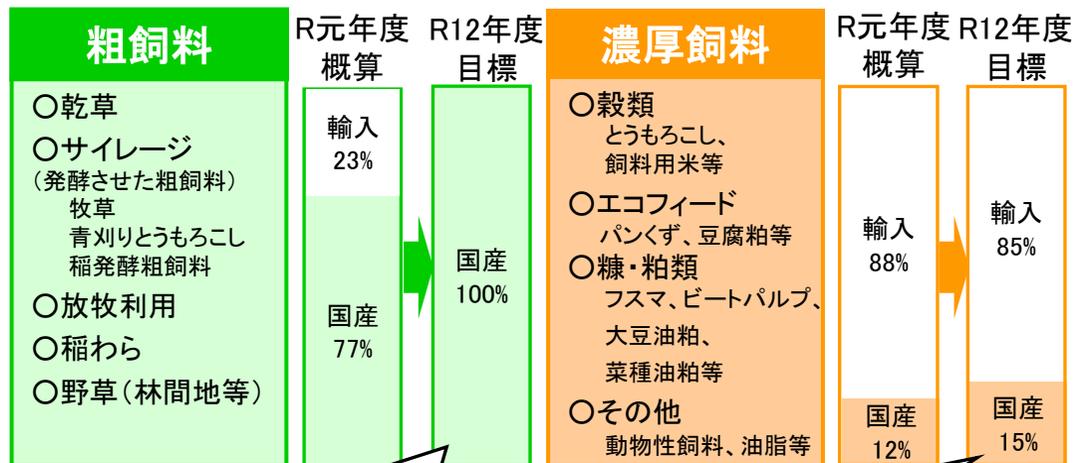
■近年の飼料自給率の推移

年度	年度										R元(概算)
	H17	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	
全体	25%	25%	26%	26%	26%	27%	28%	27%	26%	25%	25%
粗飼料	77%	78%	77%	76%	77%	78%	79%	78%	78%	76%	77%
濃厚飼料	11%	11%	12%	12%	12%	14%	14%	14%	13%	12%	12%

年度	H17	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元(概算)
国内供給濃厚飼料に占める国産原料由来エコフィードの割合	6%	12%	12%	13%	13%	12%	13%	13%	13%	14%	14%

資料: 農林水産省畜産部飼料課調べ

注: 国内供給濃厚飼料とは、国内産に由来する濃厚飼料(国内産飼料用小麦・大麦等)であり、輸入食料原料から発生した副産物(輸入大豆から搾油した後発生する大豆油かす等)を除いたものである。



乾草、サイレージ(牧草、青刈りとうもろこし、稲WCS)、放牧利用、稲わらなど

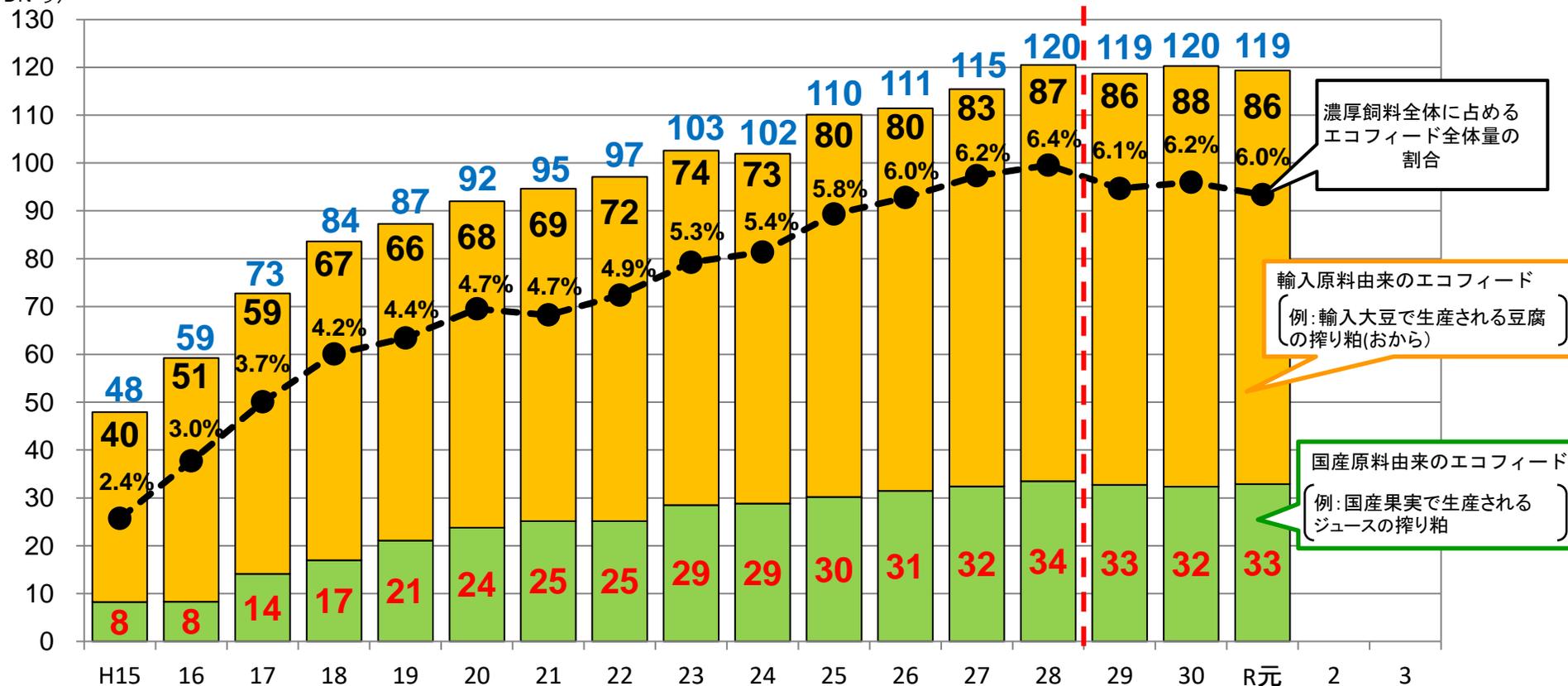
エコフィード、飼料用米、国産穀物(とうもろこし等)

エコフィードの製造数量

- ・ エコフィードの製造数量は近年ほぼ横ばいで推移。令和元年度のエコフィード製造数量は約119万TDN^ト(概算)であり、濃厚飼料全体の約6%に当たる。
- ・ 国産原料由来のエコフィードの製造数量は33万TDN^ト(概算)であり、新たな「食料・農業・農村基本計画」における令和12年度の濃厚飼料自給率目標15%の達成のために国産原料由来エコフィードを中心に生産・利用を拡大する必要。

エコフィードの年度別製造数量

(※万TDN^ト)



資料：農林水産省生産局畜産部飼料課調べ

※ TDN(Total Digestible Nutrients)：家畜が消化できる養分の総量。カロリーに近い概念。

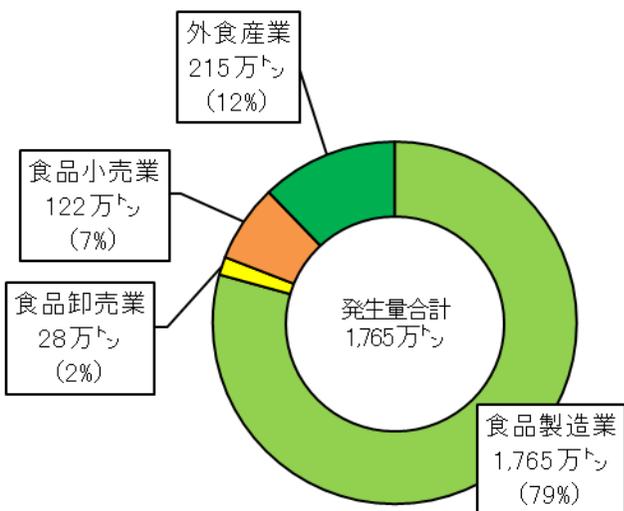
※ 平成29年度の集計から調査対象品目が減少したため28年度以前と連続しない。

エコフィードの意義(食品リサイクル)

- 食品の大量廃棄や最終処分場のひっ迫等により、廃棄物処理をめぐる問題が深刻化している状況の中、食品に係る資源の有効な利用の確保及び食品に係る廃棄物の排出の抑制を図ることを目的として、食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律(食品リサイクル法)が平成13年に施行。
- 食品リサイクル法は、食品廃棄物等の発生抑制を優先的に取り組んだ上で再生利用等を実施することとしており、再生利用にあたっては、食品循環資源が有する豊富な栄養価を最も有効に活用できるものとして、飼料化が最優先となっている。
- 平成30年度の食品廃棄物等の1,765万トンのうち、1,218万トンが再生利用されており、そのうち約7割の904万トンが飼料として利用されている。

■食品廃棄物等の発生量(平成30年度) ■食品廃棄物等の再生利用状況(平成30年度)

(単位:万トン)



	食品廃棄物等の年間発生量	再生利用量			熱回収	減量	再生利用以外	廃棄処分	
		飼料化	肥料化	その他					
食品製造業	1,400	1,116 (80%)	871 (78%)	167 (15%)	79 (7%)	41	163	38	42
食品卸売業	28	15 (54%)	4 (28%)	8 (55%)	3 (17%)	0	1	2	10
食品小売業	122	47 (38%)	19 (41%)	14 (30%)	13 (28%)	0	0	0	75
外食産業	215	40 (18%)	9 (23%)	17 (44%)	13 (33%)	0	2	1	173
食品産業計	1,765	1,218 (69%)	904 (74%)	207 (17%)	107 (9%)	41	166	41	299

資料:食品リサイクル法第9条第1項に基づく定期報告結果と「食品循環資源の再生利用等実態調査(平成29年度)」(農林水産省)を用いて推計

- 注:1 再生利用における飼料化量には、米ぬか、ふすま、大豆粕等、従来から配合飼料原料として広く用いられてきた食品副産物を含む。
 :2 「再生利用以外」とは、食品リサイクル法で定める再生利用手法以外のもので、セメント、きのご菌床、暗渠疎水剤、牡蠣養殖用資材等を指す。
 :3 再生利用量()は食品廃棄物等の年間発生量に対する割合。飼料化、肥料化、その他()は再生利用量に対する割合。
 :4 単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

<食品リサイクルにおける取組の優先順位>

- ① 発生抑制 ② 再生利用(飼料化を最優先) ③ 熱回収 ④ 減量

■「食品循環資源の再生利用等の促進に関する基本方針」における食品廃棄物等の再生利用等の実施率に係る目標

- 食品リサイクル法に基づく基本方針で、業種別に再生利用等実施率目標が設定されている。
- 令和元年7月に公表された新たな基本方針における再生利用等の実施率に係る目標は、2024年度(令和6年度)までに、食品製造業:95%、食品卸売業:75%、食品小売業:60%、外食産業:50%となっており、2019年度(令和元年度)までの目標と比べ、食品製造業及び外食産業においては据え置き、食品卸売業及び食品小売業においては+5%となっており、更なる再生利用等の促進が必要である。

エコフィード活用のメリット(飼料コスト低減・品質向上)

- 畜産業のエコフィード活用のメリットは、地域の未利用資源や食品残さ等の有効利用による、①飼料コストの削減、②家畜の生産性・畜産物の品質の向上などがあげられる。

飼料コストの低減



○ エコフィード利用による飼料コストの削減試算

配合飼料のうち約2割をエコフィードで代替した場合

肥育豚1頭あたり、**約3,000円(約12%)**の飼料費の削減が可能。

- 配合飼料平均価格: 66.5円/kg※1
- エコフィード(ドライ)平均価格: 27.6円/kg※2
- 肥育豚1頭あたりの配合飼料供給量: 357.1kg※3

資料1:(公社)配合飼料供給安定機構「飼料月報(R2年8月)R2年5月工場渡価格

資料2:農林水産省生産局畜産部飼料課調べ(R2年5月調査)

資料3:農林水産省「畜産物生産費統計(H30年度)」

肥育豚1頭あたりのコスト比較

- 配合飼料のみを給与する場合
 $66.5\text{円/kg} \times 357.1\text{kg} = 23,747\text{円/頭}$
- 配合飼料のうち2割をエコフィードで代替する場合
 $(80\% \times 66.5\text{円/kg} + 20\% \times 27.6\text{円/kg}) \times 357.1\text{kg} = 20,969\text{円/頭}$

○ エコフィードへの転換による飼料費低減事例(肥育豚) (愛知県 トヨタファーム)

平成28年度飼料費低減率

飼料費比較: 配合飼料48円/kg → エコフィード20円/kg (製造諸費用込み)

飼料製造量: 約1,200t以上/年

平成28年度飼料費低減割合: **18.8%**、低減額約**3.4千万円**

飼料給与等状況 肥育豚給与開始日齢85日齢→180~200日齢
年間給与頭数 肥育頭数約7,000頭
(うちエコフィード給与頭数: 約4,000頭)
配合割合 エコフィード90%:大豆粕10%
小麦を主原料とする廃棄食品等を低価格(5~20円)で買入
による低コスト化を図っている。

家畜の生産性・畜産物の品質向上

○ 養豚農家における乾燥飼料の給与による生産性・品質の 向上事例(山口県 株式会社小野養豚)

- 平成5年に製パン業者から製造ロスのパン等の引取依頼を受け、自家加工・調整によるエコフィードの利用を開始。
- パン屑に加え、米ぬか、ピーナツ屑、酒米の米粉、米ぬか、野菜屑等に原料受入を増やし、加工したエコフィードとトウモロコシ等との配合利用。
- 配合飼料給与時に比べ、嗜好性が高まり、パン主体のためサシが入りやすく、オレイン酸増加など品質の向上に繋がった。



○ その他、エコフィードの給与による生産性・品質向上事例

- 肉質の向上(小麦を、主原料とするものの含有量を高くすることにより、豚脂の融点が下がり、触感がよくなり、「さし」が入りやすい事例)
 - 嗜好性が向上(米を炊飯し、アルファ化することで甘みが増し、嗜好性が向上した事例)
 - 臭気防止(消化効率が良く、余分な窒素分が排出されず、糞尿のアンモニア臭が軽減された事例)
 - 消化率の向上(加熱済みのものが多く、消化吸収されやすく増体・飼料要求率の改善が図られた事例)
 - 疾病率の減少(乳酸菌の摂取による腸内環境の改善による疾病低減事例)
- 等、現場でのエコフィード給与による生産性・品質向上等に係る様々な事例が寄せられている。

エコフィード活用のメリット(食品産業・ブランド化)

- また、食品産業の食品残さ等をエコフィード原料として提供するメリットは、①廃棄物処理費の削減、②SDGs(持続可能な開発目標)推進などがあげられる。
- さらに、エコフィードを利用した畜産物をブランド化して販売する取組も行われている。

食品産業におけるメリット

○ 廃棄物処理費低減(試算)

一般廃棄物排出量が年間200トンの食品事業者の場合、
年間の廃棄物処理に係る費用**3,200千円/年**の削減が可能。

・事業系一般廃棄物の搬入手数料: 16円/kg(16,000円/t)※

資料:食料・農業・農村政策審議会食料産業部会 第18回食品リサイクル小委員会 第16回
食品リサイクル専門委員会配布資料より、人口9万から10万以上の市の事業系一般
廃棄物搬入手数料の平均

$16,000\text{円/t} \times 200\text{トン} = 3,200\text{千円/年}$

一般排出廃棄物を飼料化等の再生利用に仕向けることにより、
廃棄物処理に係る費用の削減が可能。

○ SDGsの推進の一環として、食品リサイクルループの実践

- ・食品小売業のA社では、各店舗で排出された野菜くずやお弁当材料などの余剰食品を、堆肥や飼料として再利用し、環境に優しい商品の開発・販売を実施。
- ・食品製造業のB社では工場から排出されたパン屑などを飼料として再生利用し、グループ会社の小売業や従業員食堂で、エコフィードで肥育された豚肉を販売するなど、食品リサイクルループの構築を実践。



畜産物のブランド化事例

○ エコフィード利用ブランド牛肥育事例(神奈川県 石井牧場)

- ・エコフィード給与による神奈川県葉山町のブランド牛「葉山牛」の肥育農家。
- ・利用されているエコフィードは、おから、ビール粕、碎米の3種類を利用。
- ・特徴は、碎米を炊飯して給与していること。碎米を炊いてアルファ化することで甘みが増して、牛の嗜好性が向上し、肉質についても脂肪融点の低い舌触りの良い肉質へと改善された。



○ エコフィード利用によるリサイクルループの構築事例 (鹿児島県 (株)ジャパンファーム)

- ・地域の焼酎メーカーが焼酎粕の廃棄処理に悩んでいたところ、飼料費低減、環境保全、地域社会の貢献になるものとして両者の利害が一致し、焼酎粕を活用したリキッドフィーディングの給与を開始。
- ・焼酎製造会社と養豚農家が地域社会への貢献や環境に配慮した取り組みを消費者にアピールすべく、鹿児島県伊佐市のブランド豚の1つ「薩摩麴いも豚/鹿児島県産いも豚」として供給する等、リサイクルループの構築をアピールしている。



エコフィードに関する認証制度

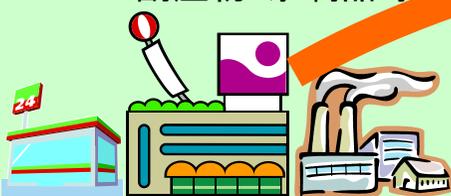
エコフィード認証制度

一定の基準(食品循環資源の利用率や栄養成分等)を満たす食品循環資源利用飼料を「エコフィード」として認証することで、食品リサイクルへの関心と理解を深めることを目的とし、平成21年3月より運用を開始。

(令和3年1月末現在、44銘柄認証済み)
加工(飼料化)

食品産業

副産物・余剰品等



食品循環資源の適正な
分別・保管等

原料の収集・運搬



飼料化施設



飼料の適正な製造・保管及び
栄養成分の維持等

販売



認証機関

(一社)日本科学飼料協会

http://kashikyo.lin.gr.jp/certifi_01eco.html

一定の基準を満たすものを「エコフィード」として認証

【認証エコフィード】

- ・エコフィードの名称利用
- ・認証マークの使用

エコフィード利用畜産物認証制度

エコフィードの利用に対する社会の認識と理解を深め、安全かつ安定的な利活用の推進を目的として、一定の基準を満たした畜産物を「エコフィード利用畜産物」として認証する制度として平成23年5月より運用を開始。

(令和3年1月末現在、7商品認証済み)

【エコフィード利用畜産物認証】

- ・エコフィードの名称利用
- ・認証マークの使用

流通(加工)

食品産業

販売・消費



認証機関

(公社)中央畜産会

<http://ecofeed.lin.gr.jp/>

一定の基準(給与計画に基づく認証エコフィードの給与、販売までのルート特定等)を満たすものを「エコフィード利用畜産物」として認証

畜産農家

給与



認証エコフィードを適正に配合した飼料を家畜に給与し、畜産物を生産

エコフィードを活用した特色ある畜産物生産の取組（令和元年度）

エコフィードを給与し特色ある畜産物を生産する先進的な事例を収集し、優良事例を表彰することにより、エコフィードの生産・利活用の取組を普及。（事業実施主体：（公社）中央畜産会）

最優秀賞 <有限会社小野養豚>

山口県萩市 ★養豚

パンくず、ピーナッツくず、米ぬか等を原料として、ウェットフィーディング方式で肥育豚に給与。動物医薬品会社に飼料設計を依頼し、定期的に飼料の配合割合を修正し、畜産物の品質向上に取り組んでいる。生産肉豚の80%は自社内で精肉加工して「むつみ豚」として販売している。

- * 飼料コスト低減割合：約44%
- * 原料：パンくず、ピーナッツくず、米ぬか等
- * エコフィード配合割合：60%
(肥育後期)



優秀賞 <株式会社悠牧舎>

群馬県前橋市 ★養豚

パン、ポテトピール、ホエー等を原料として、オランダ式のリキッドフィーディングシステムを取り入れた大規模経営を実施。肥育、繁殖、ほ育の各生産段階で飼料原料の種類を変え、コンピューターによる衛生的な給与の取組を実施。生産された豚肉は「桜絹豚(さくらきぬぶた)」として販売している。

- * 飼料コスト低減割合：約59%
- * 原料：パン、ポテトピール、ホエー等
- * エコフィード配合割合：70%
(肥育豚)



特別賞 <大阪府立農芸農業高等学校>

大阪府府堺市 ★肉用牛・養鶏

ワイン粕とふすまを混合し乳酸発酵させた「ワイン粕サイレージ」を肥育牛に給与し、「のうげい姫牛」及び「農芸マザービーフ」として販売。また、採卵鶏にも給与し「なにわワインたまご」を生産する等、資源循環型畜産を実現し、エコフィード利用畜産物のブランド化に取り組んでいる。

- * 飼料コスト低減割合：33%
- * 原料：ワイン粕、ふすま
- * エコフィード配合割合：50%



特別賞 <熊本県立熊本農業高校>

熊本県熊本市 ★養豚

パン、納豆・大豆皮、緑豆、テングサ、米粉を原料として、発酵飼料「エクセレント」を生後30日から出荷まで豚に給与し、低コストな養豚経営を実現。生産された豚肉は「シンデレラネオポーク」として販売。県の産業技術センターで肉質調査を行うなど、産学官連携の実施により高品質化に取り組んでいる。

- * 飼料コスト低減割合：90%
- * 原料：パン、納豆・大豆皮、緑豆、テングサ、米粉
- * エコフィード配合割合：100%



※飼料コスト低減割合＝(エコフィードを利用しなかった場合の飼料コスト－エコフィードを利用した場合の飼料コスト)/エコフィードを利用しなかった場合の飼料コスト
※エコフィード配合割合＝エコフィードの給与飼料量/(エコフィードの給与飼料量＋エコフィード以外の給与飼料量)
※取組事例の詳細は、(公社)中央畜産会HP(<http://ecofeed.lin.gr.jp/excellent/index.html>)をご覧ください。

<参考> 認証エコフィード一覧(1)

令和3年1月末現在 (26事業者44銘柄)

	認証番号	申請業者名	所在地	エコフィードの名称	食品循環資源の主な内容	飼料化の手法	対象家畜	食品循環資源利用率
1	21認証第1号	有限会社フジ商事	愛知県江南市	フジエコドライ1号	パン、菓子パン、パン屑、米飯、弁当(ご飯のみ)、惣菜、弁当(おかず部分)、野菜・野菜屑等	熱風乾燥	豚	100%
2	21認証第3号	京都有機質資源株式会社	京都府長岡京市	京(みやこ)1号	食品製造副産物、余剰食品、事業系調理残さ、事業系食べ残し	油温減圧脱水方式による脱水乾燥	豚、家禽	100%
3	21認証第5号	明治飼糧株式会社 (新北海道飼料㈱委託製造)	北海道苫小牧市	もろみペレット	しょう油粕、タピオカ澱粉粕	ペレット化	牛	82%以上
4	21認証第6号	中部有機リサイクル株式会社	愛知県名古屋	ドライエコフィードP1	豆腐粕、生鮮食品(野菜・果物)の成型屑、余剰食品・調理残さ・食べ残し等	蒸気間接加熱乾燥+脱脂	豚、家禽	100%
5	22認証第8号	有限会社ブライトピック千葉	千葉県旭市	子豚・肉豚前期用ベーススープ	食品製造副産物等、余剰食品	乳酸発酵処理による液状飼料	豚	52%以上
6	22認証第9号			子豚・肉豚後期用ベーススープ				
7	22認証第10号			子豚・肉豚前期用スープ(オールインワン)				
8	22認証第11号			子豚・肉豚中期用スープ(オールインワン)				
9	22認証第12号			子豚・肉豚後期用スープ(オールインワン)				
10	22認証第14号	JA東日本くみあい飼料株式会社 鹿島工場	茨城県神栖市	IPSF匠瑳ECO18	菓子屑・国産大豆粕・国産菜種粕	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
11	22認証第15号	有限会社ファインフォダ	群馬県前橋市	A飼料用乾燥おから	豆腐粕(生おから)	高速攪拌火力乾燥(植物性廃食油燃料使用)	牛・豚・鶏	75%以上
12	22認証第35号	JA東日本くみあい飼料株式会社 鹿島工場	茨城県神栖市	IPSF匠瑳ECO16	菓子屑・国産大豆粕・国産菜種粕・国産脱脂米ぬか	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
13	23認証第1号	フィード・ワン株式会社 (苫小牧飼料㈱苫小牧工場委託製造)	北海道苫小牧市	エコ55	菓子パン屑・国産大豆粕・国産菜種粕・国産ふすま・国産脱脂米ぬか	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
14	23認証第3号			エコ65				
15	23認証第6号	フタバ飼料株式会社	栃木県塩谷郡	モルトレージ2号	豆腐粕・醤油粕・ビール粕・国産ふすま	混合及び攪拌	牛	86.9%
16	23認証第7号			特配レージ	豆腐粕・茶粕・醤油粕・ビール粕・国産ふすま			95.0%
17	23認証第12号	株式会社日本フードエコロジーセンター	神奈川県相模原市	FE飼料A	小麦系生地屑・パン屑・めし屑・生麺屑等	破碎混合加熱処理	豚	100%
18	23認証第13号	株式会社農業技術マーケティング	千葉県市川市	V-Mix	食品製造副産物等、余剰食品	熱風間接型乾燥	豚、鶏	100%
19	24認証第6号	株式会社菅与	秋田県横手市	すがよ発酵エコフィード	食品製造副産物等、余剰食品	乳酸発酵処理による液状飼料	豚	90%以上

<参考> 認証エコフィード一覧(2)

	認証番号	申請業者名	所在地	エコフィードの名称	食品循環資源の主な内容	飼料化の手法	対象家畜	食品循環資源利用率
20	24認証第8号	有限会社八王子安澤畜産	茨城県坂東市	バクーン	食品製造副産物等、余剰食品	破碎及び配合	豚	50%
21	25認証第1号	フィード・ワン株式会社 (苫小牧飼料㈱苫小牧工場委託製造)	北海道苫小牧市	エコ14	菓子屑・国産大豆粕・国産脱脂米ぬか	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
22	25認証第4号	株式会社リソースガイア	福岡県糸島市	い〜とエコフィード	小麦系生地屑・パン屑・生麺屑余剰食品等	蒸気式間接加熱方式	豚	100%
23	25認証第5号	株式会社宝山	岩手県奥州市	宝	ビール粕、国産大麦ジスチラーズソリュブル、おから等	混合及び攪拌	牛	60%以上
24	25認証第6号			元				50%以上
25	25認証第7号			王				60%以上
26	25認証第9号	株式会社松村組商事	福岡県飯塚市	パン飼料	パン屑	乾燥及び粉碎	豚	100%
27	26認証第1号	株式会社橋本	岐阜県可児市	ドライエコフィードH1	総菜、野菜加工屑、米飯、菓子、菓子パン等	蒸気式間接加熱方式	豚	100%
28	27認証第2号	株式会社木村牧場	青森県つがる市	エコフィードつがる	食品製造副産物等、余剰食品	加水混合	豚	100%
29	27認証第3号	有限会社おがた	熊本県宇城市	すくすくパン粉豚	パン屑	破碎乾燥	豚	100%
30	27認証第4号	エコマネジメント株式会社	和歌山県紀の川市	繁殖和牛用発酵混合飼料	豆腐粕、麦茶粕、みかん絞り粕、梅種等	サイレージ化	牛	90%以上
31	27認証第6号	フィード・ワン株式会社 (苫小牧飼料㈱苫小牧工場委託製造)	北海道苫小牧市	エコ13	菓子パン屑、国産大豆粕、国産菜種粕、国産ふすま、国産脱脂米ぬか	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
32	29認証第1号	株式会社環境システムズ	群馬県高崎市	KSIエコ1号	おから	攪拌、発酵しサイレージ化	牛	100%
33	29認証第2号			KSIエコ2号	おから、バカス			70%
34	29認証第3号			KSIエコ3号	おから、バカス、ビートパルプ、米ぬか			51%
35	29認証第4号			KSIエコ4号	おから、コーンコブミール			70%
36	29認証第5号	JA西日本くみあい飼料株式会社 倉敷工場	岡山県倉敷市	エコ16	国産ごま油粕・国産醤油粕・国産大豆粕・国産菜種粕	粉碎及び配合	採卵鶏	20%以上
37	29認証第6号			エコ17				
38	29認証第7号			エコ18				
39	29認証第8号	アニマルフィード株式会社	千葉県習志野市	乾燥おからA	おから	高速熱風乾燥	鶏、豚、牛	100%
40	29認証第9号	大阪府立農芸高校	大阪府堺市	農芸エコフィード	豆腐粕、うどん、ふすま	攪拌、発酵	牛	60%以上
41	29認証第10号	株式会社日本フードエコロジーセンター	神奈川県相模原市	FE飼料B	小麦系生地屑・パン粉・ご飯屑・生めん屑等	破碎、発酵	豚	100%
42	29認証第11号	有限会社蔵尾ファーム	大阪府枚方市	菓子粉	菓子パン屑、菓子屑	熱風乾燥	豚	100%
43	29認証第12号			食パン粉	食パン屑(みみを含む)			
44	元認証第1号	熊本県立熊本農業高等学校	熊本県熊本市	エクセレント	食パン屑、米粉、もやし粕、大豆皮、納豆屑、天草屑	混合、攪拌及び発酵	豚	60%以上

<参考>エコフィード利用畜産物認証一覧

令和3年1月末現在（7商品）

認証番号	申請業者名	認証した商品	利用畜種	商品の販売先			給与した認証エコフィード	食品循環資源の主な内容
				主な生産農場	地域	販売先		
1 23-1号	山崎製パン株式会社	惣菜パン	豚	(有)ブライトピック(千葉県)	関東	ユニー(株)、(株)サークルKサンクス、(株)ファミリーマート	22-8号 22-9号	食品製造副産物等、余剰食品
2 23-2号	有限会社ブライトピック	豚精肉	豚	(有)ブライトピック(千葉県)	関東	(株)エコス、イオンリテール(株)	22-8号 22-9号	食品製造副産物等、余剰食品
3 23-3号	有限会社ブライトピック千葉	豚精肉	豚	(有)ブライトピック千葉(千葉県)	関東	(株)エコス、イオンリテール(株)	22-8号 22-9号	食品製造副産物等、余剰食品
4 23-4号	山崎製パン株式会社 安城工場	惣菜パン	豚	(有)寺内ファーム(愛知県)	東海	ヤマザキショップ、(株)デイリーヤマザキ	21-1号	パン、菓子パン、パン屑、米飯、弁当、惣菜、野菜・野菜屑等
5 23-5号	株式会社ホクリヨウ	殻付き卵	鶏	(株)ホクリヨウ千歳農場(北海道)	北海道	イオン北海道(株)、マックスバリュ北海道(株)、イオントップバリュ(株)	23-1号 23-3号	菓子パン屑・国産大豆粕・国産菜種粕・国産ふすま・国産脱脂米ぬか
6 23-6号	株式会社農業技術マーケティング	殻付き卵	鶏	採卵鶏農家(千葉県)	千葉県 茨城県	(スーパーマーケット) (コンビニエンスストア)	23-13号	食品製造副産物等、余剰食品
7 24-8号	株式会社農業技術マーケティング	豚肉(千葉ヨーク)	豚	養豚農家(千葉県)	千葉県	井筒まい泉(株)	23-13号	食品製造副産物等、余剰食品

畜産生産力・生産体制強化対策事業のうち国産飼料資源生産利用拡大対策事業 未利用資源活用対策

対策のポイント

未利用資源活用等の促進、飼料化事業者の持続的な原料確保の促進及びエコフィードを活用した差別化畜産物の流通・販売に係る普及、地域の未利用資源活用推進、エコフィード生産利用体制高度化を支援します。

普及支援

未利用資源活用等の促進

① 未利用資源活用等の促進

- ア 未利用資源(これまで活用が進んでいない飼料資源)の活用事例を普及する優良事例表彰及び普及セミナーの開催、有効活用のためのシステムの構築(マッチングの検討)を支援
- イ 飼料原料情勢の変化に対応するための参考資料(手引き)等の作成・周知による飼料化事業者における持続的な原料確保・製造の促進、エコフィードを活用した差別化畜産物の流通・販売に関する普及活動及びエコフィードの認証取得を支援

生産支援

地域の未利用資源活用等の促進

② 地域の未利用資源活用推進

- 地域の未利用資源を新たに飼料として活用するための以下の取組を支援(補助率:定額、1/2以内)
- ア 未利用資源の調査(実態調査、事例調査、成分分析・安全性の調査、家畜への影響調査等)
 - イ 計画の策定(検討会の開催、取組方針、利用計画の策定)
 - ウ 飼料生産・利用に向けた体制構築(安定した飼料生産・利用を確立するための技術指導等)
 - エ 未利用資源活用拡大の地域推進(技術や取組内容の普及、技術協力、地域の未利用資源活用の活動等)
 - オ 未利用資源を飼料として活用するために必要な器具・機材のリース導入(1/2以内)

③ エコフィード生産利用体制高度化

- ア エコフィード生産安定供給対策(補助率:定額、1/2以内)
原材料の変化等に対応した栄養成分の安定化、エコフィードの製造コストの削減等のための製造方式の見直しによるエコフィードの生産安定供給体制の構築を図るための取組を支援
(ア) 計画の策定(検討会の開催、生産安定供給計画の策定)
(イ) 製造コストの削減に向けた製造方式の見直し(栄養分析、実証)
(ウ) 計画に基づく生産安定供給に必要な器具・機材のリース導入(1/2以内)
- イ 高品質エコフィード生産利用対策(補助率:定額、1/2以内)
高品質エコフィードの生産・給与体制等の確立を図ることによりエコフィード認証等を取得するための取組を支援
(ア) 計画の策定(検討会の開催、高品質エコフィード生産利用計画の策定)
(イ) エコフィードの高品質化に資する経費(栄養分析、実証)
(ウ) 計画に基づく高品質エコフィード生産利用に必要な器具・機材のリース導入(1/2以内)

エコフィード生産利用体制高度化

事業内容

(1) エコフィード生産安定供給対策

原材料の変化等に対応した栄養成分の安定化、エコフィード製造コストの削減等のための製造方式の見直しの取組を支援

(2) 高品質エコフィード生産利用対策

高品質エコフィード生産・給与体制等の構築を図ることによりエコフィード認証等を取得するための取組を支援

主な支援内容

① 体制構築に必要な経費【定額】

- ・技術検討会及び研修会の開催や食品排出業者等の実態調査等の費用
- ・栄養成分分析や製造コスト分析等の実施に必要な費用(飼料分析費・飼料添加剤)

② エコフィード生産安定供給技術実践【1/2以内】

- ・必要な器具・機材の事業実施期間中のリース費用

① 体制構築に必要な経費【定額】

- ・技術検討会及び研修会の開催やエコフィード認証者等の取組事例の実態調査等の費用
- ・栄養成分分析や技術指導等の実施に必要な費用(飼料分析費・飼料添加材、旅費等)
- ・家畜への給与実証に必要な費用(給与実証調査協力費、肉質評価試験、加工品評価等)

② 高品質エコフィード生産利用技術実践【1/2以内】

- ・必要な器具・機材の事業実施期間中のリース費用



検討会及び研修会に必要な費用

実態調査等の費用

飼料の製造・運搬等必要な器具・機材のリース費用

栄養成分等分析・品質安定に必要な資材費

認証取得等に必要な技術指導費

家畜への給与実証

主な事業要件

① エコフィード生産安定供給計画の策定をすること

② 実施計画時に定めた目標達成にむけた取組を実施すること

原材料の供給量の増加、製造コストの低減、分別の細分化の実施等

① 高品質エコフィード生産利用対策計画の策定をすること

② 実施計画時に定めた目標達成にむけた取組を実施すること

エコフィード認証、農場HACCP認証等、エコフィード認証等の獲得に向けた飼料製造工程の規則等の策定等及び必要となる機材等の教育を受けるもの等

※令和3年度予算については、今後、国会審議を経て決定されることとなるため、内容等に変更が生じる可能性があります。

※事業内容・事業要件等の細部については、実施要綱・実施要領等で定めています。